書評

吉見俊哉著『トランプのアメリカに住む』

野本久夫

この本は、ハーバード大学客員教授として一年間（2017 年 9 月から)、ライシャワー日本研究所に滞在した吉見氏が、7 つのテーマを取り上げアメリカ社会を観察した記録である。『世界』2018 年 1 月号からの連載に加筆・修正を行って新書にまとめたものである。

次の 3 つのテーマを興味深く、納得しながら読んだ。第 4 章「性と銃のトライアングル」―ワインスタイン効果とは何か。アメリカ映画界でここ 30 年間、女優や女性社員に悪質なセクハラ行為を重ねていた大物プロデューサー、ハーヴェイ・ワインスタインの長年の行状があった。1980 年代からアカデミー賞を含む傑作を生み出して、ハリウッドの頂点に上った人物がその裏で何人もの女性を自分の性的欲望を満足させるための餌にしていたのだ。「ニューヨーク・タイムズ」と「ニューヨーカー」が 2017 年 10 月に暴露したのだ。華やかなアメリカ映画界の暗部を明らかにして、アメリカ社会の裏側を見せつけた。効果は映画界だけでなくジャーナリスト、政界の議員、元・現大統領にまで及んでいる

第 5 章「反転したアメリカンドリーム」労働者階級文化のゆくえ。ここ数十年アメリカでは公共のサービスが劣化しているという。公共の郵便局が信用されず民間の宅配が重宝される、高速道路網発展のかげで地方の道路が傷んでデコボコになっている、特に公教育の劣化は甚だしい、特に給食制度が裕福な州とそうでない州での格差が大きい。2018 年 3 月には待遇改善を求める教師のストライキが各州に広がっている。これらが長期化しているが、児童の親や学校側も教師の行動に一定の理解を示しているのだ。アメリカ社会での少数の富裕層と膨大な貧困層への両極化が進んでいる。

第 6 章「アメリカの鏡・北朝鮮」核とソフトパワー。2018 年 4 月、南北朝鮮の両首脳が板門店で会談し、朝鮮半島の非核化と平和構築の流れが劇的に始まった。アメリカと北朝鮮の歴史上初めての会談が 6 月におこなわれた。氏はアメリカと北朝鮮の核や朝鮮戦争終結問題など今後の動きを述べている。

昨年来の、朝鮮半島の非核化、平和への急速な流れの中、安倍外交は「6 カ国協議」参加国として何かしているのか。アメリカの大国覇権主義が強まる一方で、核兵器禁止条約採択に貢献した非同盟諸国と反核・平和を求める世界の市民運動が高揚している今、アメリカを知るうえで読んで欲しい。

＊ これは新英語教育 2019 年 8 月号に掲載されたものです。吉見氏は現在東大大学院教授で社会学・文化研究・メディア研究が専攻です。